

スマイルまなづる 166号

真鶴町立まなづる小学校
令和8年度学校だより

9月9日(水)

学校教育目標

「考える 関わる 創りだす」

～自分で考え 仲間と考え 創りだしたり解決したりする子の育成～



学校ホームページ用2次元コード

夏休み中に予定どおり引越しが終わり、8月31日(月)から、いよいよ小中合同での学校生活が始まりました。新しい環境で迎えた2学期初日でしたが、始業式での子どもたちの態度や表情を見ると充実した夏休みを過ごしたことが感じられました。

今回の学校だよりは、この「小中合同生活」の特集です。今回の合同生活は、令和12年(2030年)の義務教育学校開校に向けての大きな一歩となる取組です。小学生と中学生が同じ校舎で過ごすことで、これまで以上に学年を越えた交流が生まれていきます。新しい生活が始まったばかりですが、子どもたちの柔らかな適応力と、互いを思いやる気持ちが随所に感じられます。これからの数か月で、どのような成長や交流が生まれていくのかとても楽しみです。



スロープに新たに設置された看板

「関わる 創りだす」 笑顔でつながる小中の輪 中学生を迎える会

8月31日(月)3校時に中学生を迎える会を行いました。小中学生が体育館に一堂に会し、児童会・生徒会それぞれがこれまでの取組紹介を行いました。どちらの発表にも「小中学生が一緒になってよい学校をつくっていきましょう！」という頼もしい言葉があり、大変うれしく感じました。最後は、小学生がつくった花道を中学生が通って退場しました。花道をつくる1年生の姿を見た中学生からは「かわいい。」という声上がり、花道を歩く中学生、拍手を送る小学生ともに笑顔が広がり、心温まる時間となりました。児童会主催の企画は大成功でした。これからも、子どもたちが主体的に学校づくりに参画できるよう、取組を続けていきます。



小学生がつくる花道を笑顔で通る中学生

「関わる」 子どもたちの自然なまざり合い

右の写真は、9月1週目の登校時と昼休みの様子です。小学生と中学生が並んで歩きながら一緒に登校する姿が見られました。きょうだいではないものの、自然に寄り添うように歩く様子がとても微笑ましく、合同生活ならではの安心感が感じられました。

また、昼休みには、中学生が小学生の手を取り一緒に遊んでいました。こうした校種や学年を越えた関わりが少しずつ増えていくことが、学校全体の温かなつながりを育てていくのだと実感しています。



登校の様子

合同生活が始まり、3つの写真からも分かるように、子どもたちは落ち着いたスタートが切れたのではないかと感じています。学校はノーチャイムですが、昼休みに外で遊んでいた中学生が時計を確認し、素早く校舎へ戻る姿が見られます。小学生のよい手本となっています。これからの生活の中で課題が生じた際には、子どもたちとともに考え、解決していくことが子どもたちの成長につながると考えています。



昼休みの様子